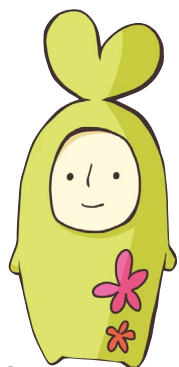


# 藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's  
University  
Library

No.103  
2024.4

1. 居場所と出会いをくれる場所  
……文化総合学科 石井佑可子
3. 教員著作紹介
5. 学生の著作紹介
5. 展示紹介 学生による企画展示
6. 大学生の図書館実習、  
中学生の職場体験
7. 蔵書点検ボランティア
7. LiSt活動報告 第9回
8. きしんさんイラストコンテスト開催

CONTENTS



## 居場所と出会いをくれる場所

文化総合学科 石井 佑可子

### 図書館の思い出

図書館に関する初めての印象的な記憶は、子どもの頃に連れて行ってもらった、名前も知らない遠くの図書館のもので。今回寄稿させていただくにあって、母に尋ねると箕面東図書館ではないかと言われたのですが、人生全般に対して覚えが悪く、本当にそこだったのかはさっぱり分かりません（インターネットで検索しても、最近リニューアルしたらしく、全くピンときませんでした）。母によると、そこへは子ども会の行事で行き、地下の調理室(?)でカレーを作って食べた(??)、らしいです。どこかも思い出せない上に、図書館の思い出、と言って良いのかよく分からないエピソードでした(勿論、カレーの記憶も全くありません)。しかし、見上げるばかりの大きな棚いっぱい本がズラッと並んでいて、おひさまの光が高い窓から降り注いでいたその光景は、心地よい感覚を伴って今でも強く心に残っています。図書を借りた・読んだ、ではなく、たくさんの本棚をただただ見上げていた思い出です(実際はカレーを食べていたようですが)。

次の記憶は、中学入学と同時に引っ越した町の豊能町立図書館です。大阪府下ですが都心まで1時間以上かかるよう

な小さな町で、することがない時の中学生には、学校にほど近い図書館が行先としてぴったりの場所でした。タイル張りの可愛い建物で、棚はそこまで高くなく、大きな窓の外には緑が揺れており、親しみやすい空間でした。友達とただただダラダラ過ごしていた覚えはありますが、自分で借りた図書の記憶はやはり、殆どありません(本はそれなりに借りていたら



豊能町立図書館

母が張り切って撮って送ってくれました。人口2万人足らずの小さな町ですが、図書の貸し出し冊数が全国や大阪で上位になることもある、住民に愛されている図書館です。

く、母や妹からは「〇〇を借りてきていたね、名作やったねえ」と言われましたが内容はおろか、借りたこと自体を覚えておらず、甲斐のない読者だと反省しました。ですが、友達に「これ、ゆかちゃんにピッタリやと思う」と『るきさん』と『火星田マチ子』を渡され、読んだことは良く覚えています。確かに私の好みで、今でも作者の高野文子と吉田戦車は好きな漫画家です。他にも、いかにも暇そうな様子が目立っていたのか、司書さんに「あちらのお部屋で講演会があるから来ない？」と誘われたことが何度かありました。お話の内容も思い出さなくて申し訳ないですが、普段接することのない作家や専門家の方の言葉を、理解できないなりに新鮮な感覚で聞いていた記憶自体は今もあざやかなものとしてあります。

大学生時代では奈良女子大学附属図書館の地下書庫脇にあった閲覧席が思い出されます。勿論勉強していたのではなく、昔のレシビ本を眺めて、「こんな面倒な作り方絶対にイヤ」と思いつつちょっとメモしてみたり、受けていた授業とは全く関係ない犯罪についての本を読んで「おのの」で慄いてみたり、そうこうするうちにちょっと眠たくなってきたり…と、今の言葉でいうタイムパフォーマンスの非常に悪い過ごし方でしたが、思い返すとそれはそれで贅沢なひと時だったようにも思えます。そしてここでも、読んだ本の細かい内容ではなく、眠りを誘うような薄暗く狭いテーブルに小さな卓上ライトがのった席の光景や、しんと静かな空気感覚ばかりが甦ってきます。

大学院に進み、その後フラフラと研究員や非常勤講師をするようになると、図書館でぼんやり過ごせる時間はだんだん減っていき、代わりに、文献を集めるために様々な図書室・館にお邪魔する機会が増えていきました（可能な範囲であれば直接行って閲覧・複写してしまおう、と思うタイプでした）。そのうち、色々な図書館に行くのが楽しくなり、非常勤講師先の大学で利用登録をさせてもらったり、学会や旅行の際に近くの図書館を訪れたりして、資料を読んだり考えごとをしたり、DVDを借りて視聴したり、そして結局またぼんやり過ごすようになりました。様々なところへ行きましたが、大きな図書館では、

大正時代のゴシック式建築が内も外も美しい東大総合図書館、高層の近代的な建物に背筋が伸びる思いがする大阪市立（現、公立）大学図書館、入ってすぐの吹き抜けが開放的な気分になる京大附属図書館、暗い館内にランプのようなライトが並んだ大きなテーブルがいくつも列になっていて、幻想的な光景にうっとりさせられるウィーン大学の図書館、白く美しい円形の建物で、



マンチェスター中央図書館

大きな天窓からの光が気持ち良いところでした。天井にはぐるっと、知恵に関する聖書の箴言が書いてあるようでした。

内部は明るく元気になれるようなマンチェスター中央図書館などが心に残っています。一方で、小規模な大学の小さな図書館や各研究科の図書室や分館なども、小ぢんまりとした居心地の良さを感じ、大きくても小さくても、古くても新しくても、図書館は好きな空間でした（藤女子大学の両図書館ももちろん好きです。なんというか、「図書館らしさ」を感じられます。だらりとした姿を見られるのはちょっと恥ずかしいのでのんびり過ごすことはないですが、学生の皆さんが閲覧席やラーニングコモンズで勉強していたり、映画を視聴していたりする姿を見ると昔を思い出し、「いいね～、いいね～」とひそかにニコニコしています）。

## 図書館がくれるもの

さて、こうして振り返ってみると、図書館は私にとって、勉強したり本を読んだりするところというよりは、ただいだけで心地よく、そっと居場所を用意してくれるような場所だったようです。「そっと」というのは、「よーし図書館に行くぞっ!」「ぜひとも図書館に行きたいっ!」というような気合や情熱を必要としない、目的もなくフラッと立ち寄ることを許してくれるような気がするからです。それでいて、整然と並んだ図書や静かな環境は適度な緊張感や非現実感も味わうことができ、その塩梅が快いです。

また、図書館は思いがけない出会いをくれる場所でもありました。中学時代の思い出で触れた、友達に紹介された漫画や、（覚えていないけれど）聞くことのできた講演は、図書館に行っていなかったら今も出会っていなかったかもしれません。ほかにも、論文をコピーしていたら写りこんでしまった別の論文の方が面白く思えてそちらも読むことにしたり、本を借りようと書庫に行ったら、すぐそばに配架されていた別の本の方が自分の知りたいことにより近くてそれも借りることにしたり…という経験は何度もしました。今は電子ジャーナルや電子図書も充実していますが、自分でキーワードを入力し検索する探し方では、得られる資料が想定内に収まってしまう、偶然の出会いや広がりにつながりにくい、と思うことがあります（関連資料も表示されるのですが、図書館で発見するような絶妙な飛躍とはまた違うので、取って替えられるものではないと思います）。

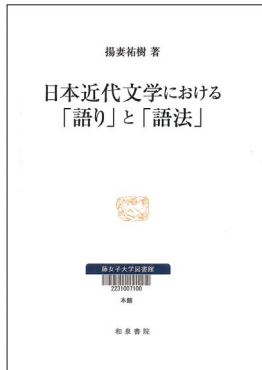
図書館情報学では、「場としての図書館」(Library as place)という比較的新しい研究テーマがあるそうです(久野, 2014)。難しい議論はご専門の方に譲りますが、図書館を、単なる情報資源が集まっているところではなく、利用者の生活の中に位置づいた、より豊かな日常の構築に資するものとする視点のようです。それでいうと私にとっての図書館は、昔からまさに場としての図書館そのものだったのだな、と感じています。毎日の生活の中に図書館という選択肢がある、というのはとても幸せで豊かなことだと改めて気づかされました。これからは、皆さんに紛れて本学の図書館の中にとっさり座っているかもれません。

### 引用論文

久野和子(2014). 新しい批判的図書館研究としての「場としての図書館」(“Library as Place”)研究 ―その方法論を中心にした考察― 図書館界, 66, 268-285.

# 教員著作紹介

先生方に自著紹介をしていただきました。教員著作コーナーに本がありますのでぜひご利用ください。

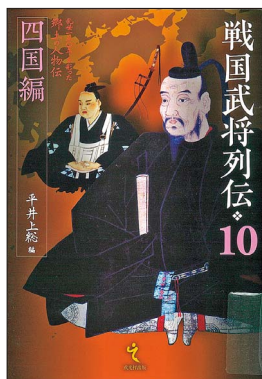


## 『日本近代文学における「語り」と「語法」』 揚妻祐樹著

和泉書院発行 2023年3月15日 所蔵館：本館

日本語・日本文学科 揚妻祐樹

揚妻は平成4(1992)年4月に本学に赴任しました。もともとは現代日本語の文法研究を行っていたのですが、徐々に時代を近代にさかのぼり、分野も文法ではなく文章の方に研究テーマをシフトさせていきました。これについては、日本語・日本文学科(旧、国文学科)に古代から現代までの文学研究のスタッフがそろっており、そこから薫陶を得たことが大きいと思っています。本書は尾崎紅葉、二葉亭四迷、三遊亭円朝などのテキストのなかから用例(文末詞や条件表現など)を拾い、彼らの創作意図の証言や文学研究の成果を踏まえながら考察しています。一応、日本語研究の範疇の中に収まるものですが、従来の文章研究に比べてかなり「文学より」であることが特徴ではないかと思っています。



## 『戦国武将列伝 10 四国編』 平井上総編

戎光祥出版発行 2023年1月10日 所蔵館：本館

文化総合学科 平井上総

戦国時代は、日本各地で様々な武士が活動していました。四国については長宗我部元親ちようそ かもとちかが有名ですが、他にも多くの人物がおり、彼らに関する研究が進んだことで、四国内のことはもちろん、四国と室町幕府や織田政権・豊臣政権との関係なども明らかにされてきております。本書はそうした四国の武将たちについて、11名の研究者が最新の研究成果を盛り込みながら解説したものです。土佐国の長宗我部氏や公家の一条氏、伊予国の河野氏や海賊村上氏、讃岐国・阿波国の細川氏・三好氏関係者などといった各武将の実態を紹介した本書は、ちょっとマイナーな対象を扱ってはおりますが、それゆえにこそ貴重な一書になっていると思います。



## 『NCR2018の要点解説：資源の記述のための目録規則』 蟹瀬智弘著

樹村房発行 2023年9月7日 所蔵館：本館

図書館情報学課程 蟹瀬智弘

図書館に自分が欲しい本があるかどうか、どのような本があるかを調べるためにOPACを使用することも多いでしょう。OPACで資料を検索すると、タイトル、著者、ページ数、大きさ等、詳しい情報が表示されます。この情報を作成するための規則を目録規則といい、日本ではおもに『日本目録規則』が使用されています。英語名の“Nippon Cataloging Rules”を略してNCRと呼んでいます。現在のOPACで表示されるデータは古い1987年版に基づいたものですが、本書は最新版である2018年版(=NCR2018)について、インターネットの時代に図書館の目録がどのように変わろうとしているのかを解説しました。

## 子ども・若者の居場所と貧困支援

学習支援・学校内カフェ・ユースワーク等での取組

横井敏郎 編著



## 『子ども・若者の居場所と貧困支援 : 学習支援・学校内カフェ・ユースワーク等での取組』 横井敏郎編著

学事出版発行 2023年3月30日 所蔵館：花川館

人間生活学科 高嶋真之

皆さんは「子どもの貧困」という言葉をご存じですか？もしかすると、あなたの友達が「貧困」の状態だったかもしれないですし、あなた自身が「貧困」の当事者だった／であるかもしれません。この課題を解決しようと全国各地で様々な実践が展開されています。本書では、「居場所」をキーワードに据えて、子ども・若者の貧困支援に関する実践の意義や課題を明らかにしようと試みています。高嶋が執筆した貧困世帯の子どもの学習支援（第1章）の他に、札幌大通高校の学校内居場所カフェ（第8章）や札幌市若者支援施設 Youth+ のロビーワーク（第9章）といった札幌で行われている実践も論じられています。貧困や福祉に限らず教育やまちづくりなど多様な観点から示唆を得られる一冊です。

## 認知言語学を英語教育に応用する

応用認知言語学の方法

Andrea Tyler (著)  
中村芳久 (監訳)

小林隆・高橋謙忠・田中理枝・對馬康博  
中村芳久・堀田優子・内井理恵 (訳)



開拓社

## 『認知言語学を英語教育に応用する : 応用認知言語学の方法』 Andrea Tyler 著、中村芳久監訳

開拓社発行 2023年7月23日 所蔵館：本館

食物栄養学科 對馬康博

本書は、Andrea Tyler (著) Cognitive Linguistics and Second Language Learning の邦訳です。著者のタイラー先生は、言語教育の分野で世界的に権威のある研究者です。本書では、認知言語学という「理論」を英語教育という「実践」に活かすため、理論上の仮説を立て、それを実験によって確かめ、客観的な証拠を挙げて証明するという説得力のある議論が行われています。特に、英語力にとって重要な文法事項の中でも、助動詞、前置詞、文レベルの構文が取り上げられています。将来、英語教員になって、大学での最新の研究成果を中学校や高校の現場の英語教育に活かし、コミュニケーションな授業を行いたい人には一読をお勧めします。

## 実践に活かす社会的養護 II

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

小川恭子・坂本 健

編著

## 『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 4 実践に活かす社会的養護II』 小川恭子、坂本健編著

ミネルヴァ書房発行 2023年4月30日 所蔵館：花川館

子ども教育学科 小川恭子

子育て不安や子ども虐待の増加等にとまない、現代の保育士には子ども一人ひとりの健全な成長を支えるために、ソーシャルワークの機能を発揮した保護者支援や地域支援を実践することが期待されています。本書は、このようなニーズに応えられるよう、「実践に活かす社会的養護I (理論)」の続編として作成しました。シミュレーションで課題発見・解決ができる様々な事例を紹介し、「実践に活かす」ことを目的に構成しています。

本シリーズを通し、理論と実践の双方から社会的養護のもとで生活をする子どもへの理解を深め、社会的養護の基本理念のひとつである「社会全体で子どもを育てる」ことについて、当事者意識をもって考える機会となることを願っています。

## 『未来の教育を創る教職教養指針 10 生徒指導』 庄井良信編著

学文社発行 2023年4月15日 所蔵館：花川館

子ども教育学科 庄井良信

2022年12月、『生徒指導提要』（文部科学省）が改訂されました。これは、今日の実状の中で、生徒指導の指針を取りまとめたものです。この提要で、生徒指導の目的は、社会における様々な他者とのかかわり合いの中で、子どものウェルビーイング (well-being) を向上させることだと示唆しています。本書は、改訂された「提要」の精神を踏まえ、新しい時代に求められる生徒指導の理念と実践像について、具体的な実践のエピソードを紹介しながら探求したものです。危機の時代ですが、決して希望を失わず、教育の未来の扉を開く生徒指導について、本書を読みながら皆さんと共に考え合いたいと願っています。

# 学生の著作紹介

人間生活学科  
在学生の本が  
出版されました！



大学のホームページや新聞に掲載されたことがあるので知っている方も多いと思いますが、今回ご本人に紹介してもらいました。本は花川館に所蔵していますので、ぜひご覧ください。



## 『おいしい部屋：家時間がぐっと豊かになる至福のレシピ 61』 えなが著

ワニブックス発行 2023年3月1日 所蔵館：花川館

人間生活学科3年 竹田真唯

この度は素敵なご縁に恵まれ、初のレシピ本「おいしい部屋」を出版することができました。全ては様々なご縁と時代のおかげです。この本を出版するにあたり、本当に色々な方々の支えがありました。このレシピ本では、家で過ごす時間が愛おしくなるお菓子から料理までの61種類のレシピを掲載しております。私自身、不器用なためお菓子も料理もそれなりに作れるようになるまでは随分時間がかかりました。だからこそ辿り着いたレシピです。毎日が忙しい人も、お料理初心者の方もこの本をみて作って味わって、とっておきのひとときを過ごしていただけたらと思います。

## 展示紹介

# 学生による企画展示



花川館では、2023年度も学生さんの企画展示を行いました。展示してくれた学生さんに展示について紹介してもらいました。

図書館では、個人でもグループでも展示をしてくれる学生さんを募集しています。興味がある方は図書館カウンターにお問い合わせください。

### 人間生活学科4年 Sさん

私は幼少の頃から物作りが好きで、現在はハンドメイドアクセサリーなどを制作しています。卒業制作は「ハンドメイドアクセサリーの販売方法の研究～作品のブランディングの視点から～」というテーマで取り組みました。実際に「Fancy Jewel」というブランドを立ち上げ、アクセサリー制作、SNSの開設、大学祭でのテスト販売を実施しました。これらの活動について、作品と卒業制作時に使用した図書を展示し、報告させていただきました。卒業後も立ち上げたブランドで作品を作り続けていきたいと思っています。



### 人間生活学科4年 Iさん

(被服学ゼミメンバー：Aさん、Oさん、Mさん)

今回、私たちはスタジオジブリの世界観を羊毛フェルトで表現し、図書館にて展示をさせていただきました。スタジオジブリの作品は見たことがなくても、キャラクターを知らない人はいないと考え、各自、印象に残っている作品の主要キャラクターを制作しました。関連図書やDVDと一緒に展示することで、作品を知るきっかけになれば、と思い、取り組み、実際に多くの学生の目に留まったことを嬉しく思います。



### 人間生活学科3年 Tさん

私の所属する被服学ゼミでは、2023年は“袴”をテーマに活動したため、「袴—HAKAMA—」をテーマに展示をしました。図書館展示に向けて、まずは各自で袴の歴史や女学生の袴について調べ、まとめました。その時に使用した図書、袴を着付けたトルソー、ミニ袴を履いたクマのぬいぐるみを一緒に飾りました。ミニ袴制作では、袴の構造への理解が深まり、クマを可愛らしく完成させられて楽しかったです。



\* 2023年度の学年を記載しています。

# 大学生の図書館実習 中学生の職場体験

新型コロナウイルス感染症対策のため2019年度実施後は中断していましたが、昨年度本学図書館情報学課程の図書館実習、中学校2校の職場体験を受け入れました。

また昨年度は、初めて図書館情報学課程の希望者に協力をしてもらい、学生と共に夏季休業中に蔵書点検を行いました。

実施後に書いてもらった感想を一部抜粋でご紹介します。（\*実習当時の学年を記載しています。）

## 大学生の図書館実習 本館 9月12日-13日 本学学生 4名

図書・雑誌の受入作業や装備、カウンター業務などの図書館業務について、2日間の日程で実習を行いました。普段利用者として使っている大学図書館のカウンター業務だけではなく、「資料が利用者の手に渡るまで」の流れも実習で学んでもらいました。

実習を行った学生うち、1名の感想をご紹介します。

### 日本語・日本文学科4年 Hさん

2日間の実習で、講義時には想像だけだった図書館の運営に実際に触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。普段学生スタッフLiStとして働いていますが、図書や雑誌の受入等について知らないことも多くあり、学生スタッフとして働くのと実際に職員として働くのでは業務の違いがあることを改めて感じました。

また、実際にシステムに触らせていただくなど、自分の手や頭を動かしてする作業も多かったため、より実感を持って図書館の運営に携わるとはということなのかなが知ることができました。図書館資料は利用しやすいような工程を経て私たちの手元に届いていることがよくわかったので、レファレンスサービスを利用したり、新着図書をチェックするなど最大限活用したいと感じました。

## 中学生の職場体験 本館 11月22日 札幌市立南が丘中学校 4名 花川館 10月24日 石狩市立樽川中学校 3名

本館・花川館で各1校行いました。本館では、職員から概要説明を行い、カウンターでの貸出・返却、文庫本へのブックカバーを含む図書装備作業の体験をしてもらいました。花川館では、職員からの図書館業務などの説明のほか、学生スタッフLiStが学内案内や書架整齊の説明を行い、その後実際に貸出・返却、配架などを体験してもらいました。

花川館で職場体験を行った石狩市立樽川中学校の生徒さんに書いていただいた感想を一部ご紹介します。

### Aさん

職場体験を通して色々なことを学ぶことができました。最初にこの図書館について説明を受けたとき、フロアが2つあることや専門の本がたくさんあり驚きました。書架整齊がとても細かい作業で難しかったです。

### Aさん

職場体験を通してたくさんのことを学ぶことができました。学内見学の時に、階段教室があつてとてもビックリしました。15分交代でカウンター、配架、書架整齊を1人ずつ体験する時、カウンターは最初とても緊張したけど、やってみたら、スムーズにできてとてもうれしかったです。

### Oさん

職場体験という貴重な体験を通してたくさんのことを学ぶことができました。大学へ行ったのは初めてで、見学したり、図書の整理をしたりすることがとても楽しかったです。やり方を丁寧に説明してくれて、うれしかったし、スムーズにできました。



## 蔵書点検ボランティア

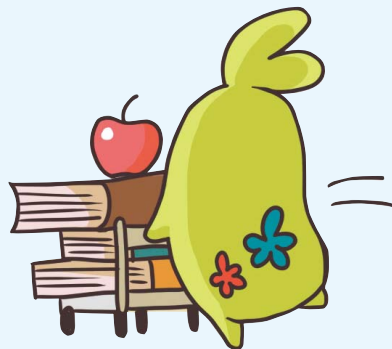
本館 8月21日-25日 本学学生 4名、非常勤講師 1名

図書館では年次計画を立てて図書館職員で蔵書点検を実施しています。蔵書点検とは、蔵書が所蔵データ通りにあるかどうかを確認する作業です。今回は試験的に図書館情報学課程の皆さんのご協力を得て、語学の分野で実施いたしました。図書に貼付されているバーコードを一冊ずつバーコードリーダーで読み取る作業を図書館職員と共に行いいただき、無事対象資料の点検を終えることができました。暑期中、ご協力ありがとうございました。

参加していただいた方の感想を一部ご紹介します。

### 日本語・日本文学科4年 Wさん

蔵書点検ボランティアを体験させていただいたことで、図書館の業務の一部を知ることができたと思います。本のバーコードを読み取る作業の中で、ケース付きであったり、ハードカバーであったり、薄い表紙であったりと、さまざまな本が世の中にあることが改めて実感できました。本には、作った人の思いが込められていて、一冊ごとにそれぞれ違った魅力があるので、大事に丁寧に扱って、長く使っていきたいと思います。



LiSt (リスト) とは?  
Library Studentの略で、  
図書館で働く  
学生スタッフの愛称です。

## LiSt 活動報告 第9回

### 【図書館＝勉強するだけの場所というイメージからの脱却】

2023年度は新型コロナウイルスによる活動の制限がほぼ全て解除され、前年度以上に図書館が活性化した年でした。藤陽祭ではブックギフト、脱出ゲームなど様々な企画を実施しましたが、中でもLiSt以外の学生にも参加を募り“人生を変えた本”をテーマにした「最推し本ポスターコンテスト」では藤陽祭だけではなく、以降の投票期間においても多くの方に投票していただき、図書館を盛り上げることができました。また、今年度は学生目線で図書館をより使いやすい空間にするため、書架見出しなどを作り変える作業にも着手しています。

そのほか、新入生図書館オリエンテーションへの企画段階からの参加、「きしんさんスタンプラリー」の実施、前年度から始まった常設展示「ブックマンション」、広報紙「LiStTimes」の発行などは少しずつ改善しながら継続しているほか、学生選書ツアーでも当日補助の手伝いを行いました。

学生の皆さんにとって図書館という存在がグッと身近になった1年だったと思います。

これからも様々な活動を通じて、図書館＝テスト期間に籠る場所というイメージを塗り替えていきたいです。  
(北16条LiSt 佐藤)



### 【新たな取り組みに挑戦し、よりよい図書館へ】

2023年度はコロナ禍も落ち着き、LiStの活動の幅もより一層広がった一年となりました。

藤花祭も2日間の一般公開が再開され、今話題の絵本から昔懐かしい絵本まで幅広く選定し、子どもから大人まで楽しんでいただける展示を行いました。また新たな試みとして、人間生活学部在籍している先生方の研究室にLiStが伺い、おすすめの本を紹介していただき展示を行いました。

そのほか、新入生に向けた図書館オリエンテーションの動画作成、「花川LiSt通信」発行など、様々な活動に取り組みました。図書館キャラクター「きしんさんイラストコンテスト」を実施するなど、粋に囚われない活動も行っています。(詳しくは次ページをご覧ください。)

今後も図書館を利用する皆さまに楽しんでいただけるよう、メンバー全員でアイデアを出し合いながら、よりよい活動に繋げていきたいと考えています。(花川LiSt 寺島)



# きしんさんイラストコンテスト開催!!

2023年8月から12月にかけて、図書館学生スタッフLiSt企画として「きしんさんイラストコンテスト」を開催しました!!

私はコロナ禍に大学に入学し、入学当初は新入生オリエンテーションも受けることが出来ず、周りからも大学の図書館についてはあまり知らないという意見をよく聞いていました。また、2022年から花川館で発行を始めた「花川LiSt通信」も、学生に興味を持ってもらう機会が少ないことから、図書館をもっと身近に感じてもらう方法はないかと考えていました。

そして2023年4月、LiStとして新入生オリエンテーションを行った際、参加していた新入生から「図書館のキャラクターがかわいくて図書館に興味を持ちました!!」という声をいただきました。藤女子大学図書館キャラクターとして人気の高いきしんさんをモデルに新たなイラストを描いてもらうことによって、図書館を身近に感じ、図書館や発行物に興味を持ってもらえるのではないかと考えました。また、勉強とは違った企画を行うことによって図書館に行くという行動がより気軽なものになれば良いなと思い「きしんさんイラストコンテスト」企画を提案しました。



LiStのミーティングで話し合い、8月から作品を募集したところ、14作品の応募がありました。11月に両館で応募作品の掲示・投票を行い、124票と大変多くの方に投票していただきました。

投票の結果選ばれた最優秀作品と優秀作品の学生さんへの表彰式を両館でそれぞれ12月に行いました。最優秀作品と優秀作品の学生さんには、応募作品



のイラストを使った手作りグッズをプレゼントしました。最優秀作品に選ばれたイラストは、2024年度から配布する「図書館利用ガイド」の表紙を飾ることとなりました。

作品の応募や投票で「きしんさんイラストコンテスト」にご参加いただいた皆様、協力していただいた担当者の皆様、本当にありがとうございました。

応募していただいたきしんさんは今後、図書館の発行物などに使用する予定なのでぜひ探してみてくださいね!! (花川LiSt 小林)



最  
優  
秀  
作  
品

図書館キャラクター「きしんさん」は、2010年学生のみなさんからの公募で誕生しました。「花とつぼみがモチーフで、好奇心のつぼみが花開くイメージ」がコンセプトのキャラクターです。

## ● 編集後記 ●

巻頭言は「居場所と出会いをくれる場所」と題して、文化総合学科の石井先生に図書館との出会いや関わり方などについて寄稿していただきました。そのほか、2023年に本を出版された先生方、在学生に著作紹介の文章、展示の感想などを寄稿していただきました。ご寄稿いただいた先生、学生のみなさまありがとうございました。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、色々なことが活発になり、自粛生活から少しずつ抜け出している人が多いと思います。昨年度、久しぶりに飛行機に乗ったら座席に個人用画面が付いていて驚きました。行動範囲が広がると新しい発見、出会いがあると改めて感じました。大学、そして図書館がみなさんの様々な新しい出会いの場になることを願っています。(W)



図書館キャラクター「きしんさん」

スマートフォンでは  
アプリを利用でき  
ます



藤女子大学 図書館だより 第103号 2024.3

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<https://www.fujijoshi.ac.jp/library/>